「これからの難聴児の教育に期待されること」

1. 社会は、聴覚障害者にどんな力を求めているか？

(1)日本語力・基礎学力に関すること

・きちんとした文章が書けない。「（パソコンが）フリーズ、レスポンス、日々」など社会で普通に使われる言葉を知らない。

(2)障害認識やセルフ・アドボカシーに関すること

・自分の障害について周りの人に説明できない。

＊セルフアドボカシー・・・適切な支援を得るために自分に必要な配慮を周りに伝えること

(3)コミュニケーション・人間関係に関すること

・ストレートな表現が多く、相手に失礼になることや、その場の雰囲気や空気感が読めなかったりする。

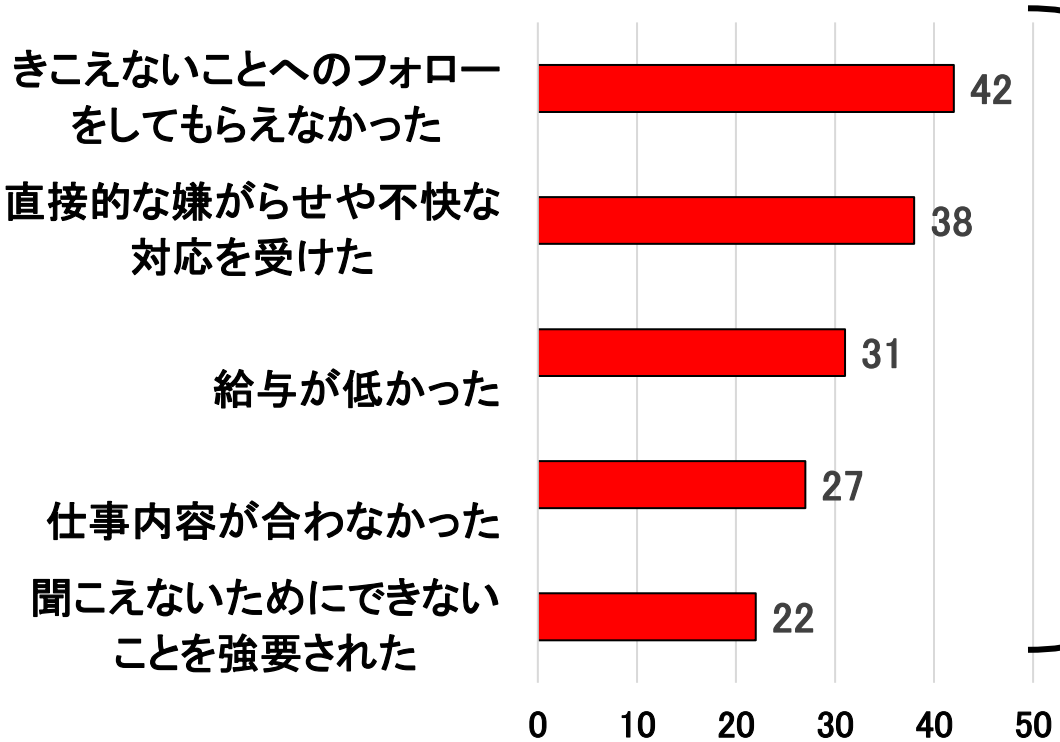
企業関係者からの要望及び岩山2008らより

2. 聴覚障害者は、社会にどんなことを求めているか？
ー聴障者が離職する理由・「ことばのかけはし」調査2024.4ー

回答者～身障手帳所有者9割、手話話者・日本語話者半々　計197名

結果から見えてくる課題

離職の理由（%）



（1）合理的配慮

とくに視覚的情報保障の不足（筆談・掲示、音声変換、手話・指文字等）

（2）障害理解

企業内での障害理解の推進（障害への差別等）

（3）業務開拓・キャリアアップ

＊合理的配慮・・・障害ある人の求めに応じて過度な負担にならない範囲で障壁の解消をすること
＊障害者雇用枠・・・従業員43.5人以上の企業は2.5%採用義務。ペナルティ月一人5万円。

3. 難聴児は学校にどんな「合理的配慮」を求めているか？

「両側難聴児・者が学校生活で抱える問題に関する調査の検討」2021、片岡らより

授業での問題点	とられている対応・措置（合理的配慮）	さらに必要な合理的配慮
全難聴児の2/3は授業の理解が80%以下。情報保障に課題	騒音防止、席の配慮、きこえの確認、ロジャー等の使用	板書、掲示、音声変換装置、手話・指文字等の視覚情報

＊障害者差別解消法・・・2024年より学校を含む公的機関だけでなく、全ての民間事業所も「合理的配慮」提供の義務を負うことになった。

友人関係での問題点	とられている対応・措置（合理的配慮）	さらに必要な合理的配慮
全難聴児の60%がトラブルを経験。疎外感、いじめ、不登校等含め対人関係に課題	話し方の配慮、言い直し、他児童への難聴に関する説明（難聴理解授業）	筆談、身振り、手話・指文字等の視覚情報

⇒「合理的配慮」として聴覚補償＋視覚による情報保障が求められている

4. これからの難聴児の教育の課題～つけたい力

1. 日本語力

社会で通用する学習言語レベルの書記言語力・思考力

2. セルフアドボカシースキル

自分の障害を理解し、周囲に自分の困り感や支援の手立てについて伝えられる力（合理的配慮を求める力）

難聴学級・通級指導担当が**自立活動**等の中で指導。（実践は個々になされているが体系的なプログラムとしてはは**未確立**）

3. コミ・人間関係スキル

多様なコミ手段・スキルを活用して他者と関わり、人間関係を築いていく力

通常学級担任や保護者と協力して聴児らの障害理解を促し、難聴児を含めたコミ・人間関係を実践的に築く。（まだ**未開拓**分野）

協議テーマ１「書記日本語力」をどうつけるか？

１．難聴学級・通級指導教室の児童の現状

障害の早期発見・早期教育、人工内耳早期装用等により、「聴こえて話せる子」が増加。⇒しかし、書記日本語力が十分といえない児童は、一定程度存在すると推測される。

２．どのような手立てが必要か？

（１）日本語力・思考力についてのアセスメント

専門的な技量を必要としない簡便な検査方法で、低学年時に実施するのがベスト⇒まずJ.cossを！

（２）アセスメントに基づいた指導

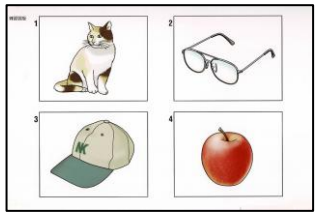
検査結果等から子どもの課題を明確にし、とくに日本語の語彙・文法指導を中心にできるだけ低学年段階で行う。

＊文法指導については難聴児支援教材研究会HP＞YouTube日本語講座等を参照

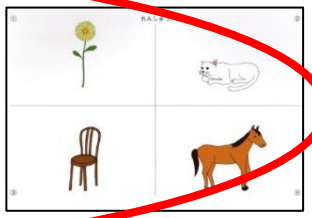
3. 低学年でやっておきたいアセスメント

言語

- **語彙力** … **絵画語彙発達検査**
  日本文化科学社21,450円
  語彙量・上位・下位概念・抽象語彙の習得



- **文法力** … **J.coss（日本語理解テスト）**
  風間書房 8,250円
  助詞・動詞活用・比較・位置・受動文・関係節



認知・思考

- **認知発達段階** … **太田ステージ**
  銀杏の会 6,270円
  空間関係・保存概念・包含概念

- **思考力**
  - **質問応答関係検査**
    類概念・語義・比喩・仮定・因果関係等言語的思考力
  - **比較3問題**
    「9歳の壁」に関連する論理的思考（推移律）

千葉テストセンター 2,000円

- **認知的共感** … **心の理論**
  DIK教育出版、3,300円
  他者の心の想像

4. 児童の語彙力を高める指導

（1）語彙力は「永遠の課題」？

語彙は時代とともに新しく作り出され増加し続けるが、聴覚からの自然習得が困難な難聴児には、聴児・者並みに語彙を増やすことは難しい。

★新教育基本語彙（国立国語研究所
小学校低学年4,300語、高学年5,900語
中学校9,000語　計19,000語

（2）語彙を増やす工夫

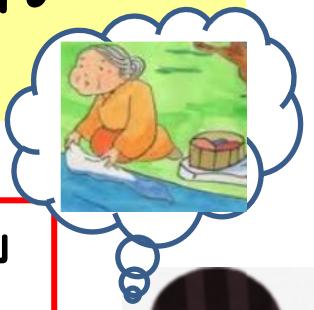
とくに生活言語レベルの「基礎語（＝具体語）」が不足する場合

・基礎語は、実体験の中でそのもの・ことについて多様な視点からやりとりすることで豊かな意味・概念が獲得される（「絵カード」等で語彙を増やすことは無意味）。 ⇒事例A

・基礎語は上位ー下位のカテゴリー構造をもつ。難聴児は、個々の物の名前（基礎語）はわかるが、上位概念の語を知らないことが多いので抽象語の獲得が難しくなる。（「犬、金魚、鳩」等の具体語が習得され、次に「動物、魚、鳥」「生物」等の上位概念語が習得される）。

【事例A児,高度難聴,2歳】「せんたく」

Aは自分の服の汚れに気づき、「汚れている」と手話。「ママと一緒に洗おう」と言って二人で手洗いをした。洗濯機で汚れた服を洗うことは知っているが、手で洗う場面を見せる機会がなかった。「洗う」という手話表現と同じ動作で洗うことができることを知ってほしいと思った。びしょびしょになりながら、洗剤をつけて「ごしごし」とそれらしく言いながら楽しそうに洗っていた。
Aが手で絞り、その後、洗濯機の脱水をかけて、「まだ濡れているね」「乾かそう！」と言って、一緒に干しに行った。



昔話『桃太郎』の話の中には、「おばあさんは川に洗濯に行きました」という一節があるが、このような体験を通して、水の冷たさや「ごしごし」という感覚と絵本のイメージとがつながる。また、洗濯機との違いや、「汚れる」「洗う」「濡れる」「乾かす」「重い」「軽い」などの動詞や形容詞も実感を伴って学習できる機会になる

カテゴリー・・・共通の性質をもったものの集まり

初めて見た！ものでも

農産物

（上位概念
・抽象概念）

穀物

果物

野菜

①グループごとにまとめておくことで、新しいモノに出会っても瞬時にそれが何か予想できる。

②グループごとに概念化することで、一つ一つ別々に記憶する必要がなくなる。

共通点

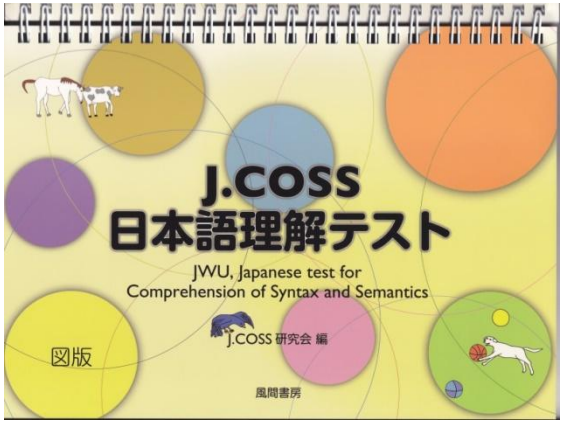
バラバラ

＊上位概念を思考に取り入れることが言語発達に有効（Watson、皆川）

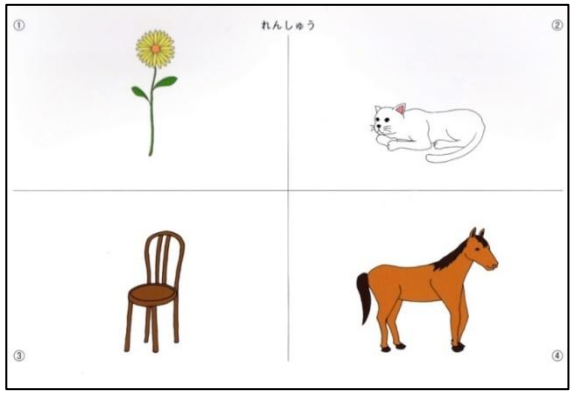
5. 児童の文法力を高める指導

(1) J.COSS(日本語理解テスト) によるアセスメント

Japanese test for Comprehension of Syntax and Semantics



「うま」



日本女子大で開発された日本語の理解度(文法力) を調べるテス

①20の文法項目に各4問ずつの問題計80問で構成

②各文法項目4問全問正答のとき「通過」とみなす。

③通過項目の数によって文法力の発達水準を評価。

＊小学校入学後に実施。小1年程度の文法力の有無(教科書を自分で読める力)を判断する。

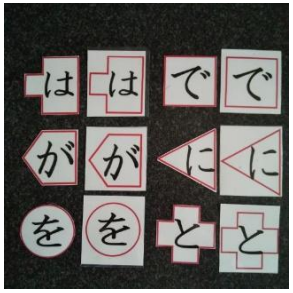
日本語理解テスト（JCOSS）検査項目

	項目	番号	問題
第1水準	名詞	年少	くつ
			鳥
			犬
			りんご
	2 形容詞		長い
			赤い
			大きい
			黒い
	3 動詞		走っています
			とっています
			すわっています
			食べています
第2水準	4 2要素結合文	年中	男の子は走っています
			大きなカップ
			犬はすわっています
			赤いボール
	5 否定文（2要素結合）		男の子は走っていません
			犬は飲んでいません
			女の子は跳んでいません
			犬は座っていません
	6 3要素結合文		男の子は箱を跳び越しています
			女の子は机に座っています
			男の人はりんごを食べています
			女の人はかばんを持っています
第3水準	7 置換可能文	年長	女の子は馬を押しています
			男の子は羊を追いかけています
			男の人は犬を追いかけています
			牛は女の人を押しています
	8 接続助詞（肯定＋肯定）		女の子だけでなく猫も座っています
			箱は大きいだけでなく青い
			鳥だけではなく花も青い
			女の子は食べ物だけでなく飲物も持っています
第4水準	9 接続助詞（肯定＋否定）	小1	箱は赤いがいすは違います
			猫は大きいが黒くはありません
			馬は立っていますが男の子は違います
			男の子は座っていますが食べてはいません
	10 多要素結合文		鳥がいすの上でりんごを食べています
			羊より大きい犬が箱の上に座っています
			猫が机の下で靴を見ています
			牛より小さい羊が男の子に追いかけられています

	項目	番号	問題
第5水準	11 接続助詞（否定＋否定）	小1	男の子も馬も走ってはいません
			鉛筆は長くも赤くもありません
			犬もボールも茶色ではありません
			男の子は帽子も靴も持っていません
	12 位置詞	小2	四角は丸の中にあります
			鉛筆は箱の上にあります
			丸は星型の中にあります
			包丁は靴の上にあります
	13 複文（主部修飾）		馬を追いかけている男の子は太っています
			四角の上にある星型は赤い
			猫を追いかけている牛は茶色い
			星型の中にある丸は黄色い
	14 受動文		馬は女の子に追いかけられています
			象は男の子に押されています
			馬は男の人に追いかけられています
			牛は男の人に押されています
	15 比較表現	小3	ナイフ（包丁）は鉛筆より長い
			箱はカップより小さい
			靴は鳥より大きい
			牛は馬より小さい
	16 数詞		猫たちはボールを見ています
			男の子は羊たちを追いかけています
			男の子たちはりんごを採っています
			象は女の子たちを乗せています
	17 複文（述部修飾）		四角は青い星型の中にあります
			鉛筆は黄色い本の上にあります
			丸は赤い四角の上にあります
			犬は茶色い馬を追いかけています
第6水準	18 複数形	小4～	猫たちはボールを見ています
			男の子は羊たちを追いかけています
			男の子たちはりんごを採っています
			象は女の子たちを乗せています
	19 格助詞		鉛筆は花の上にあります
			馬を牛が押しています
			男の子を羊が見ています
			鉛筆はスプーンの下にあります
第7	20 複文（中央埋込）		本は鉛筆が上にあって赤い
			牛は馬が追いかけていて小さい
			丸は星型が中にあって赤い
			犬は男の子が追いかけていて大きい

（参考）助詞の指導方法～「助詞手話記号」の活用

①助詞カードの活用（視覚化）



「ジュースが冷たい」

「プーさんが
蜂蜜をなめる」

②助詞手話記号の活用

	場所				時間や数量		対象	道具材料手段方法	原因理由
	目的地	現地	出発地	通過	ポイント	範囲			
に	に	に			に		に		
で		で				で		で？	で？
を			を	を			を		
と							と と		

【で】

校庭 で あそぶ

5人 で あそぶ

風邪 で やすむ

縄跳び で あそぶ

＊難聴児支援教材研究会HP＞YouTube日本語講座（全33回）

（参考）動詞活用の指導方法～動詞活用表の利用

＊形容詞活用指導も同じパターン

①動詞活用表の指導（例ＩＧ動詞）

グループ

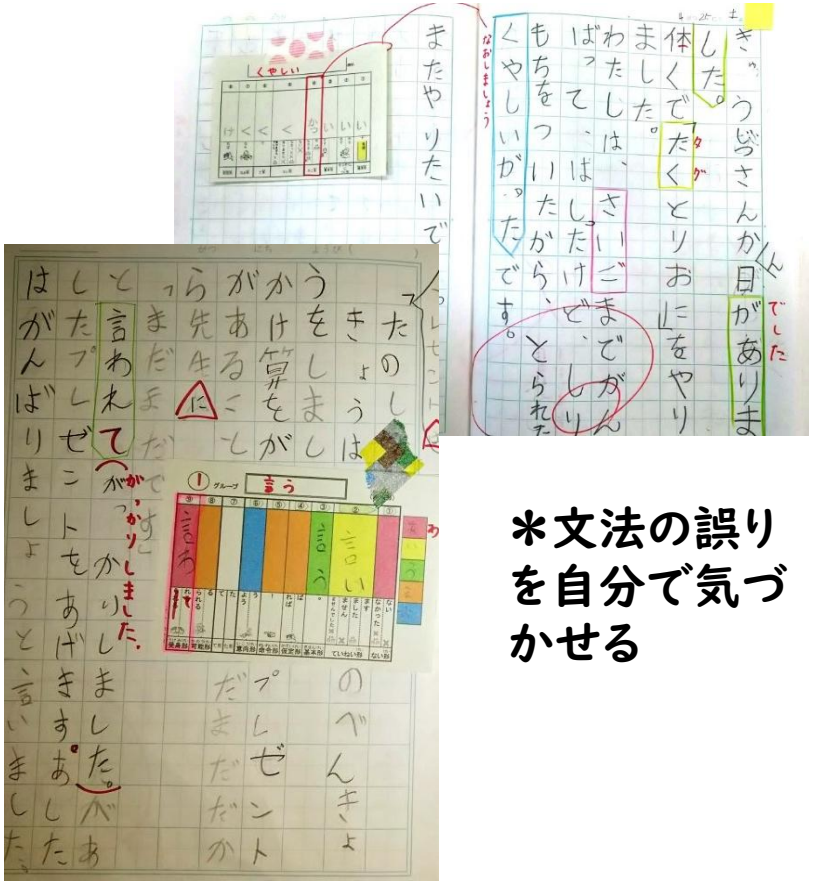
（基本形）

⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
られる れる	られる る	て た	よう う	！	れば ば	。	ませんでした ません ました ます	なかった ない
受身形	可能形	て形 た形	意向形	命令形	仮定形	基本形	ていねい形	ない形

大塚ろう学校版

わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
い	り		み	ひ	に	ち	し	き	い
う	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
え	れ		め	へ	ね	て	せ	け	え
を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お

②日記等の指導



＊文法の誤りを自分で気づかせる

＊難聴児支援教材研究会HP＞YouTube日本語講座（全33回）

参考「品詞カード」を活用した文の可視化（構造化）

「きのう、わたしは いえで てがみを かきました。」

きのう　私　は　家　で　手紙　を　書きました

情報　助詞　述部

きのう

私

家

手紙

は

で

を

書きました

「品詞カード」を活用した質問文の作り方

「きのう、わたしは　いえで　　てがみを　かきました。」

きのう　私　は　家　で　手紙　を　書きました

情報	助詞	述部
いつ		
だれ	が	
どこ	で	
なに	を	書きました か？

協議テーマ2「セルフアドボカシー・難聴理解」

1. 難聴児の実態

(1) 難聴児は自分の「困り感」を言うのが苦手

(2) 難聴児の6割は友達とのトラブルを経験している （片岡、2021)

⇒自分の障害やそこから生じている問題に自分でまず気づくこと！

2. 自分の困り感を伝え、適切な支援を得るために
ーセルフ・アドボカシーの指導についてー

第１段階・・・まず、自分の障害について知ることから始めよう！
＊自分自身を客観的に見れる発達段階

難聴児が自分の障害について客観的に知ることは、そう簡単ではない。

＊自分の障害について（例）

- 自分の障害名とその特徴
- 自分の難聴の種類
- 自分のきこえのレベル
- HA（CI）のしくみと役割・管理
- ロジャーマイクの使い方
- 様々な情報保障の方法
- 聞き間違いや発音について
- こんな時どうする？（災害時・交通機関・病院・買物等）
- 障害についての家族や自分の思いなど
- 毎日の生活の中でどんな時に困るのか？

①自分のきこえの状態は環境や相手の条件（距離、騒音、人数等）、心理的要因等によって常に変動する。
②聴者の「きこえる状態」を体験していないので、何がどう聞こえていないのか自分のきこえの状態の説明が難しい。
③難聴者皆それぞれのきこえ方の特徴があるので一括りにして考えられない。

↓

（例）実際場面でのきこえの確認等を通して、自分のきこえの特徴や困り感について把握し、「自分のトリセツ」（合理的配慮の方法）をまとめる。

第2段階・・・自分の障害について、その特徴やどんな時に困るのかなど相手に伝え、必要な支援について知ってもらう。

＊交流学級等で「障害理解授業」をおこなう。
＊本人から困り感を話し、どのようにしてほしいか伝える。

（例）

自分のきこえの特徴・困り感など	どのような支援をしてほしいか（合理的配慮の方法）
補聴器は雑音も増幅するので周りが騒がしいと聴き取れない。	授業中はなるべく静かにしてほしい。
補聴器をしていても遠くの声や後ろからの声は聴き取れない。	後ろから呼ぶときは肩をたたくか、前に回って口を見せて話してほしい。
一対一でも突然の話題は、話の中身を理解できないことがある。	大事なことは紙に書くとか指文字で示してほしい。文節で区切って話してほしい。
ロジャーがあっても全ての話が聴きとれているわけではない。テレビやCDなどの音は聴き取りが難しい。	先生は前を向いて話してほしい。板書を多くしてほしい。音声認識装置を使ってほしい。テレビ等には字幕を付けてほしい。
集団での話し合いは、同時に話されると声が混ざって聴き取れない。	自分が話すときは合図をして順番に話してほしい。筆記や音声認識装置、できたら指文字や手話を覚えて使ってほしい。

3. セルフアドボカシーの指導から障害理解の指導へ

＊低学年時より交流学級等で「障害理解授業」をおこなう。
＊児童の発達段階に合わせた内容で順次積み重ねていく。

年齢	発達段階の特徴	セルフアドボカシー	障害理解授業
低学年	「脱中心化」（Piaget）が十分に進んでおらず客観的に自分について考えるには不十分なので補聴器の役割等基本的な内容にとどめる。	自分の障害について客観的な認識はまだ難しい段階なので補聴器やロジャー等についての管理や機器の使い方などを中心に学ぶ。	難聴児の補聴器や補聴援助システム、手話等への関心が芽生えてくるので、それらの役割や使い方、関わり方などについて大人が中心になって説明をする。
中学年 高学年	「脱中心化」が進み自分自身を対象化して理解できる年齢なので、積極的にセルフアドボカシーや障害理解授業について取り組む。	自立活動などで自分の障害について学ぶ（前頁、前々頁内容参照）⇒障害理解授業の際に他児童に伝える機会を持つ⇒実際の関わりの中で新たな課題について深める。	聴覚障害とは？難聴疑似体験等についての授業。児童が自分の困り感、具体的な支援の手立てについて話す・⇒障害に対する聴児の知識化や態度形成につなげ、全員参加型の学級の実現に努める。

＊参考『障害理解～心のバリアフリーの理論と実践』、徳田克己、2005

難聴児支援教材研究会発行図書　http://nanchosien.blog/

助詞学習のためのテキスト
2，200円（CD付）

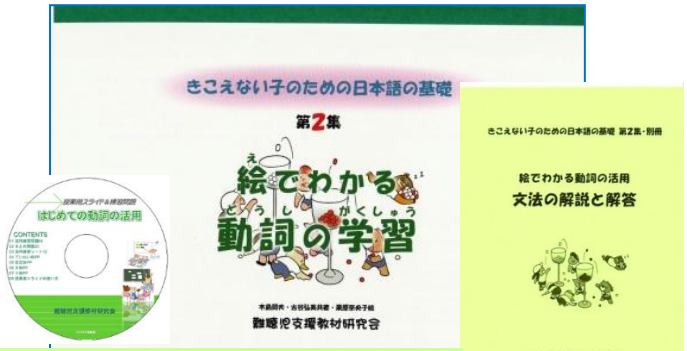
R6年度より一般図書（教科書）採用

（ホームページ）

メールアドレス（連絡先）
nanchosien@yahoo.co.jp
Tel.03-6421-9735

語彙の豊かさを育てるためのワークブック　1，400円（解説本・CD付）

R4年度より一般図書（教科書）採用



動詞を学ぶワークブック
2,200円（解説本・CD付）

END